



安曇野建設事務所の10年



ごあいさつ



安曇野建設事務所の歴史は遠く明治にまでさかのぼりますが、昭和 25 年の行政機構改革で「豊科建設事務所」と改称されてから、今年度で 66 年になります。平成 17 年 10 月の安曇野市誕生に伴い、「安曇野建設事務所」と改称されてから今年度で 10 周年を迎えたことを記念し、豊科建設事務所時代も含め、安曇野建設事務所の足跡を記念誌として発刊することといたしました。

建設行政を取り巻く環境は大きく変化しておりますが、私どもは県民の安全・安心を守るためにも、着実に社会資本の整備を進め、少子・高齢化に対応した生活の基盤を次の世代に引き継いでいかねばなりません。

豊科建設事務所時代からの事業量を振り返りますと、平成 10 年度の約 133 億円をピークに平成 27 年度は約 23 億円へと大幅に減少しております。しかしながら、地域の方々からは、道路や河川等の生活基盤、社会資本整備の要望が数多く寄せられています。20 世紀は建設の時代でしたが、21 世紀は老朽化した施設の更新も必要であり、管理の時代と言われております。この節目の年に先人たちの底力・知恵に思いを致しながら過去の歴史を振り返り、21 世紀における県土づくりを進めてまいりたいと決意を新たにしているところであります。

結びに、この記念誌を発刊するにあたり、多くの皆様からのご寄稿をはじめ、資料のご提供をいただきましたことに対し、深甚なる敬意と感謝の意を表して発刊のことばといたします。

平成 28 年（2016 年） 3 月

安曇野建設事務所長 下里 巖

安曇野建設事務所 10 周年に寄せて



安曇野建設事務所設立 10 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、安曇野市政に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

安曇野建設事務所には、本市の社会資本充実のため、道路・河川・砂防施設の整備及び、維持管理などの事業を進めていただき、安曇野市民の安全・安心に大きく寄与していただいております。

安曇野市では、松本糸魚川連絡道路などの大型事業が計画されている一方、糸魚川-静岡構造線断層帯の危険性の高まりや、近年の異常気象による豪雨や豪雪などが懸念され、安曇野建設事務所の責務は甚だ大きく、更なる機能強化が不可欠となっております。市としても期待するところです。

昨年、安曇野市は、市制施行 10 周年の節目を迎えました。将来都市像「北アルプスに生まれ共に響き合う田園産業都市安曇野」を目指し、新たな一步を踏み出すことができました。

また、少子高齢化や人口減少社会への対応として「安曇野市まち・ひと・しごと総合戦略」を策定しました。「市人口ビジョン」で掲げた「2040 年度に人口 8 万 3,000 人」を維持するための施策に取り組んでまいります。

安曇野市が一層活気にあふれ、魅力ある地域として成長・発展できますよう安曇野建設事務所のご協力をお願いいたします。

結びに、安曇野建設事務所の更なるご発展を祈念いたしまして、お祝いのあいさつとさせていただきます。

安曇野市長 宮澤 宗弘

目 次

ごあいさつ	
1 管内の概要	1
(1) 安曇野地域の概要	
(2) 安曇野地域の社会資本整備	
(3) 安曇野建設事務所の施策と主要事業	2
2 地域からの声	16
3 安曇野建設事務所の歴史	19
(1) 組織の変遷	
(2) 豊科建設事務所時代の主なできごと	20
(3) 安曇野建設事務所の 10 年	24
4 これからの安曇野へ ～ 職員からのメッセージ	34
編集後記	

1 管内の概要

(1) 安曇野地域の概要

安曇野建設事務所が所管する安曇野市は、長野県のほぼ中央部に位置し、豊かな自然と優れた景観に恵まれ、観光や豊富な水の恵みを活用した産業が盛んな田園産業都市です。「安曇野」とは、安曇野市を中心とし、北安曇地域の一部と松本市梓川地区を含む総称です。

安曇野市は、西側に^{つぼくろ}燕岳、^{だいてんじょう}大天井岳、^{じょうねん}常念岳、^{ちようが}蝶ヶ岳など3千m級の山々が連なる北アルプス連峰がそびえ立ち、中部山岳国立公園となっています。これら山岳地帯を源として^{たかせ}高瀬川、^{ほたか}穂高川、^{からす}烏川、^{くろさわ}黒沢川、^{よろずい}万水川などが流れ、上高地を源とする^{さい}犀川と合流し、豊かな水環境をもたらしています。これらの河川により、なだらかな扇状地や平地が形成されたことで、「安曇野」を象徴する田園風景が広がり、「安曇平」とも呼ばれ、多くの人に親しまれています。犀川、万水川、穂高川、高瀬川が合流する付近では、地下水が豊富に湧き出ており、ワサビの栽培やニジマスの養殖が行われ、観光地にもなっています。

(2) 安曇野地域の社会資本整備

ア 交通網の現況

管内のほぼ中央を一般国道147号とJR大糸線が南北に並行し、東側には長野自動車道と一般国道19号及びJR篠ノ井線が並行しています。これらを交通の骨格とし、東西を結ぶ県道等によりネットワークが形成されています。

長野自動車道は、昭和63年8月に松本インターチェンジから豊科（現在、安曇野）インターチェンジの間が開通。平成5年3月に豊科（現在、安曇野）インターチェンジから更埴ジャンクションの間が開通し、上信越自動車道と接続しました。平成22年11月には梓川スマートインターチェンジが開通しています。

これらの交通網により、観光や製造業等の産業が発展し、現在の安曇野市の基盤を支えています。

イ 河川・砂防の現況

河川は、管内の東側を一級河川犀川が北に流れ、明科地域で万水川、穂高川、高瀬川と合流し、さらに北に流下しています。西側の山麓から流れ出る河川は、砂礫層を流下するため水の浸透性が極めて大きく、特に一級河川黒沢川は、いわゆる尻無川となっています。

砂防は、主に穂高川や烏川、黒沢川など西側山麓の砂防河川において砂防えん堤等の土砂災害対策を、東西の山麓において急傾斜地崩壊対策や地すべり対策を県が実施してきています。なお、明科地域の砂防事業は、長野県犀川砂防事務所が所管しています。

ウ 都市計画の現況

安曇野市は、平成24年12月に、旧町村ごとにあった5つの都市計画区域を1つの都市計画区域に統合して「安曇野都市計画区域」とし、豊科都市計画に定められていた区域区分（線引き）を廃止しました。豊科都市計画区域が指定されていた区域は、線引きの廃止と同時に「安曇野市の適正な土地利用に関する条例（安曇野市条例：平成23年4月1日施行）」の適用区域となり、適正かつ合理的な土地利用を図っています。

エ 都市公園の現況

長野県烏川渓谷緑地は、平成 14 年 4 月に開園した県営の都市公園です。「水辺エリア」と「森林エリア」があり、烏川の源である北アルプスの常念岳や蝶ヶ岳を望み、烏川渓谷沿いの多様な自然とふれあうことができる公園です。自然や環境の保全のため、平成 27 年 4 月から当緑地でのバーベキュー利用を禁止しています。

国営アルプスあづみの公園は、平成 16 年 7 月に堀金・穂高地区（第 1 期の約 27ha）が開園し、平成 28 年 6 月に全園開園する予定の都市公園です。「堀金・穂高地区」と「大町・松川地区」があり、安曇野市内の「堀金・穂高地区」は、失われつつある安曇野の田園風景を保全・復元し、安曇野という地域の自然・文化を体験できる拠点として構成されています。

オ 下水道の現況

犀川安曇野流域下水道は、公共用水域の水質保全と関連市町村の生活環境の改善を図るため、松本市（梓川）・安曇野市（豊科・穂高・三郷・堀金）の 2 市を対象に県が整備を進めているものです。平成 9 年 12 月に旧豊科町、旧穂高町が供用開始され、平成 10 年 5 月に旧堀金村、平成 11 年 10 月に旧三郷村、旧梓川村がそれぞれ供用開始されました。

平成 26 年度末において、事業進捗率は約 86%、普及率は約 93%、下水道利用者は約 78,000 人となっており、安曇野市豊科田沢の終末処理場「アクアピア安曇野」への汚水流入量は日平均約 22,000 m³となっています。

カ 農業用水路

安曇野には、多くの堰（せぎ）や用水が流れ、大地を潤しています。

拾ヶ堰は最大規模の堰で、江戸時代後期の文化 13 年（1816 年）に開削されました。幹線水路の延長は 15km、ほぼ標高 570m の等高線に沿って安曇野の中央部を貫いて流れ、高低差は 5 m ほどです。開削工事は、延べ 6 万人以上の農民が参加し、約 3 カ月の短期間に工事を終えるという驚異的な事業でした。現在、約 1,000ha が灌漑されており、安曇野の今日を築いた文化遺産です。農林水産省の「疎水百選」にも選ばれています。

この他、江戸時代に開削された主な堰だけでも、新田堰、矢原堰、勘左衛門堰、新堀堰（堀廻堰）、五ヶ用水があります。

(3) 安曇野建設事務所の施策と主要事業

ア 平成 27 年度の施策

平成 27 年度の施策テーマは、「確かな暮らしが営まれる美しい安曇野をめざして“安曇野…この自然と文化を後世に”」です。

安曇野は、豊かな自然と優れた景観を有し、観光や豊富な水の恵みを活用した産業が盛んな「田園産業都市」です。これら地域の特徴を生かしながら、安全で安心して暮らせ、豊かで持続可能な地域づくりを進めるため、広く住民の声に耳を傾けながら社会基盤の整備を進めています。また、道路施設等の長寿命化、住民との協働による美化活動、ソフト対策の充実による地域防災力の強化等にも取り組んでいます。

イ 主要事業

★・・・「才 主要事業例」に掲載

地域防災力の向上

- ◆ 安心して暮らせる川づくり
 - ・河川改修 (一)帯広川 南穂高
 - ・調節池整備 (一)黒沢川 黒沢
- ◆ 土砂災害から人命・財産を守る施設の整備
 - ・急傾斜地崩壊対策 (急)桜坂小瀬幅★
(急)有明苑★
 - ・砂防施設緊急改築 (砂)黒沢川 三郷小倉

住民が安全に暮らせる環境の整備

- ◆ 通学路の安全対策
 - ・歩道整備 (国)147号 神田町北 (一)中堀一日市場(停)線 温★
 - ・歩道整備 (一)梓橋田沢(停)線 真々部 (主)安曇野インター堀金線 田尻

快適な生活と経済活動を支える高速交通ネットワークの充実

- ◆ 地域高規格道路の計画調査
 - ・計画調査 地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路

身近な生活道路等の整備・維持管理による快適で暮らしやすいまちづくり

- ◆ 身近な生活道路の整備
 - ・計画調査 (主)安曇野インター堀金線 本村
 - ・道路改築 (主)穂高明科線 常盤橋★
(国)403号 矢越防災★
(主)塩尻鍋割穂高線 塚原
(一)有明大町線 宮城～宮城北
(国)403号 山中
(主)大町明科線 堂木戸
(主)安曇野インター堀金線 大口沢
- ◆ 道路施設等の長寿命化★
 - ・橋梁修繕 (国)147号 穂高橋
(主)穂高明科線 安曇橋
(一)小岩岳穂高(停)線 富田橋
 - ・舗装補修 (国)147号 新田～成相
 - ・公園施設の長寿命化 烏川溪谷緑地★
- ◆ 豊科地域のまちづくり
 - ・「豊科まちづくりグループ」への支援

豊かで多様な自然環境の適切な保全・将来への継承

- ◆ 清らかな水環境の保全
 - ・犀川安曇野流域下水道★の整備と適切な管理運営
- ◆ 住民団体等による美化活動等への支援★
 - ・アルプス花街道実行委員会 等 9団体
 - ・穂高川河川愛護会 等 10団体
- ◆ 地域住民との協働による維持管理の推進
 - ・烏川溪谷緑地★「市民会議」他

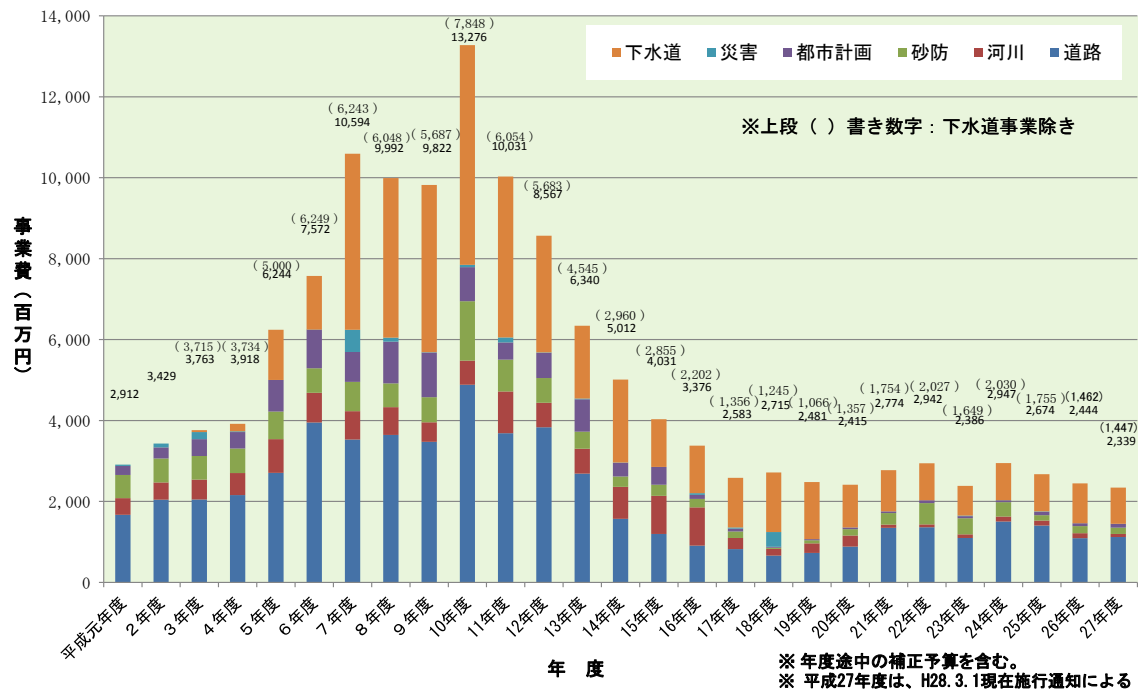
地域に根ざし、住民の暮らしを身近で支える建設産業の振興

- ◆ 地域経済を活性化する事業執行
 - 工事施工時期の平準化など計画的・効果的な事業執行
 - 労働環境の整備を促進するモデル工事の実施
 - ・「週休2日を確保するモデル工事」等
- ◆ 次世代を担う技術者の就労促進
 - ・建設系学科の高校生を対象とした講習・研修会等の開催
- ◆ 建設産業技術向上の支援
 - ・若手技術者の表彰
 - ・技術者セミナーの開催 他

ウ 主要事業の位置



エ 事業費(実績)の推移



才 主要事業例

安曇野建設事務所の平成27年度「主要な工事実施箇所」

<p>【円滑な交通の確保】 主要地方道 <small>ほたかあかしな</small> 穂高明科線 安曇野市 <small>ときわばし</small> 常盤橋</p> <p>歩道がなく車道の幅も狭く、老朽化していたため、新たな橋に架け替える工事を進めています。 平成27年7月、新しい橋が開通しました。</p>	 <p>着手前(旧 常盤橋)</p>	 <p>開通(H28.2月現在)</p>
<p>【円滑な交通の確保】 国道403号 安曇野市 <small>やごせぼうさい</small> 矢越防災</p> <p>筑北村との境界付近は、地形がきびしく道路の幅が狭いため、道路を拡げる工事を進めています。</p>	 <p>着手前</p>	 <p>H27施工中(H28.3月現在)</p>
<p>【通学路の安全確保】 一般県道 <small>なかほりひといちばてい</small> 中堀一日市場(停)線 安曇野市 <small>ゆたか</small> 温</p> <p>小中学校に近く通学路として利用されていますが、歩道がなく車道の幅も狭いため、車道を拡げるとともに新たな歩道の整備を進めています。</p>	 <p>着手前</p>	 <p>H27完成</p>
<p>【がけ崩れによる被害の防止】 安曇野市 <small>ありあけえん</small> 有明苑</p> <p>がけ下の介護老人保健施設「有明苑」が、がけ崩れによる被害を受けないように、斜面の対策工事をを行い、平成27年12月に完成しました。</p>	 <p>着手前</p>	 <p>完成</p>
<p>【がけ崩れによる被害の防止】 安曇野市 <small>さくらさかこせはば</small> 桜坂小瀬幅</p> <p>がけ下の住宅等が、落石やがけ崩れによる被害を受けないように、落石防護柵を設置する工事を進めています。</p>	 <p>着手前</p>	 <p>H27完成</p>

道路施設長寿命化修繕計画の取り組み

1 道路施設の老朽化と維持管理

長野県が管理する道路公共土木施設は、高度経済成長期以降に整備が進み、今後急速な老朽化の進展によりこれら道路施設の更新時期が集中し、一度に大きな負担が生じることが懸念されています。道路施設は、県民の命と暮らしを守り、産業・経済を支える重要な役割を担う施設であり、その時代の要請に応え、そのストックは年々増加しています。

こうしたなか、長野県では、現在使用している施設をより長く、より健全な状態に保つ取り組みを行っています。

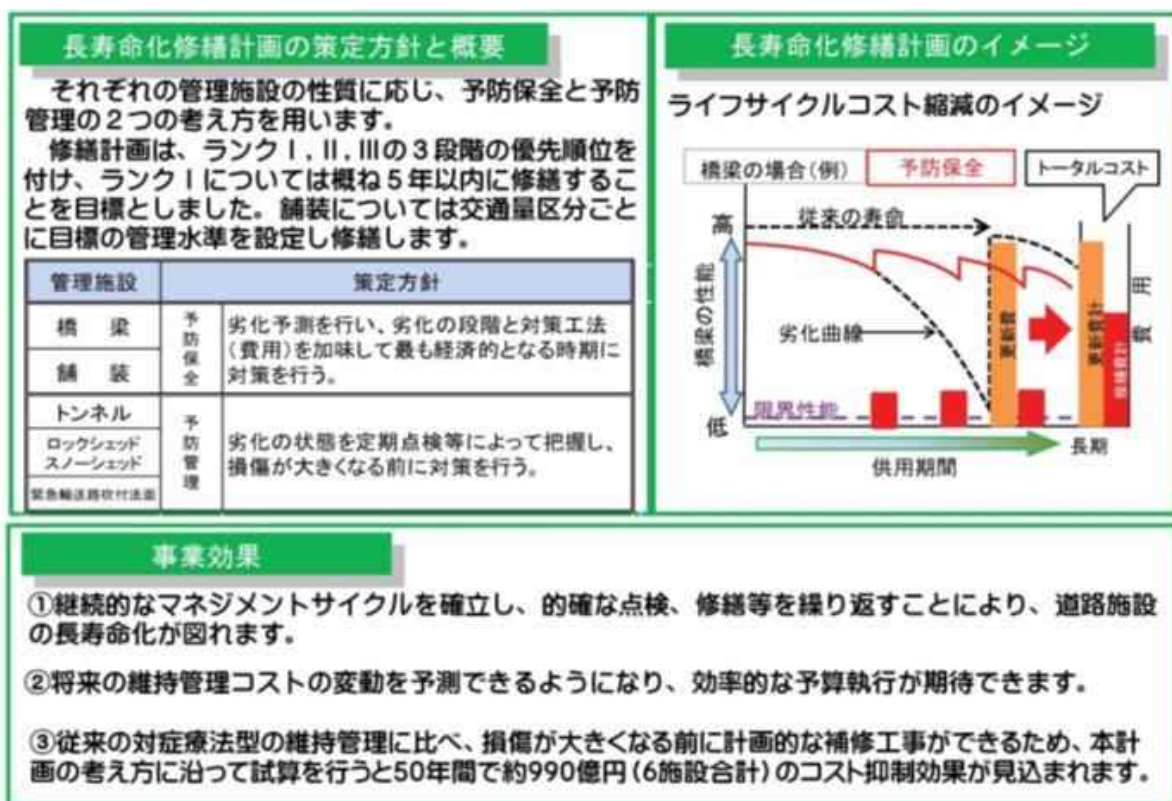
2 長寿命化修繕計画の策定と計画に基づく維持管理

安曇野建設事務所が管理する道路施設の変状状況の調査、健全度の把握を行い、安全で安心な道路サービスを提供するとともに、ライフサイクルコスト削減と維持管理費の平準化を図ることを目的として、道路を構成する各施設それぞれの性質に応じた適切な維持管理を行うための「道路の長寿命化修繕計画」を策定しました。

安曇野建設事務所が管理する道路施設は、施設の高齢化が進んでいます。

管理施設	管理数 H24.4.1現在	安曇野建設事務所 道路長寿命化修繕計画			
		要修繕	5年以内 H25～H29	10年以内 H30～H34	15年以内 H31～H35
橋梁	177橋	39橋	9橋	10橋	20橋
舗装	172km	—	—	—	—
トンネル	1本	0本	0本	0本	0本
ロックシェッド	4箇所	3箇所	0箇所	1箇所	2箇所
スノーシェッド	1箇所	1箇所	0箇所	1箇所	0箇所
緊急輸送路吹付法面	13箇所	7箇所	2箇所	3箇所	2箇所

【下図：長野県 道路の長寿命化修繕計画より抜粋】



安曇野建設事務所 橋梁長寿命化修繕計画(第2期計画)の実施状況

路線名	一般国道 穂+豊大村線	完成年次	昭和30年	補修工事実施状況			
橋梁名	大王橋	橋梁年数	60歳	着手 年度	平成25年度	完了 年度	平成26年度

全景写真

大王橋

位置図

大王橋

補修状況写真

主桁断面修復施工状況

主桁ひび割れ補修工
施工状況

路線名	主要地方道 穂高駅前線	完成年次	平成4年	補修工事実施状況(予定)			
橋梁名	安曇橋	橋梁年数	23歳	着手 年度	平成26年度	完了 年度	平成29年度 予定

全景写真

位置図

安曇橋

補修状況写真

排水ドレーン設置状況

シート防水施工状況

路線名	国道147号	完成年次	昭和31年	補修工事実施状況(予定)			
橋梁名	穂高橋	橋梁年数	59歳	着手 年度	平成26年度	完了 年度	平成28年度 予定

全景写真

位置図

穂高橋

補修状況写真

床版断面修復施工状況

床版防水施工状況

路線名	一般国道 小笠原穂高停車場線	完成年次	昭和29年	補修工事実施状況			
橋梁名	富田橋	橋梁年数	61歳	着手 年度	平成27年度	完了 年度	平成27年度 完成

全景写真

位置図

富田橋

補修状況写真

ゲルバー固定支承 改修状況

ジャッキアップ状況

長野県烏川渓谷緑地

1 計画の概要

多様な植物と、そこに生きる昆虫や動物たち。様々な生物が共存する園内は、自然環境を保全する大切さを身をもって感じることができる場所です。



2 経緯

- 平成2年10月 都市計画決定
- 平成4年4月 事業認可
- 平成14年4月 第1次整備区域 (水辺エリア) 開園
- 平成17年4月 第2次整備区域 (森林エリア) 開園

3 管理運営

- 平成16年度まで ・ ・ (財) 長野県公園公社に委託
- 平成17年度から ・ ・ 県直営管理
- 平成22年度から ・ ・ 指定管理者（(一般財団法人) 公園財団）に委託
維持管理 資料収集 園内案内 自然観察会 学習会（主に小学生対象）

(1) 来園者数（平成27年12月1日現在）

単位：人

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
人数	25,000	30,000	32,500	29,900	24,600	24,600	31,300	33,400	29,300	28,300

- ・ 入園料：無料
- ・ 開園日：年末年始を除く通年（H17年からは冬期間（12月～3月）も管理事務所を開所）

(2) 市民会議との協働

市民会議とは、烏川溪谷緑地の良好な整備や管理運営のために市民と管理者が共に考え、実行する場です。

- ・ 平成16年2月5日設立
- ・ 平成26年度までに通算73回開催
- ・ 市民会議主催の学習会、森林整備等活動は、年間50回以上(H26実績)



市民会議との協働作業

(3) 環境教育

- ・ 本緑地は、単に遊んで楽しいというだけでなく、学習・体験の場としても利用いただいています。
- ・ 一般向け公開学習会 「からすの学校」を、平成26年度までに74回開催。
- ・ 小学生対象環境学習会 平成25年度からは市内全小学5年生が環境について体験型で学んでいます。



環境学習状況(野外)



環境学習状況(室内)

(4) 緑地におけるバーベキュー利用の禁止について

本緑地では、開園当初から一定のルールのもと、バーベキューに利用されてきましたが、近年、バーベキュー利用者の増加とともに、河川での用具類の洗浄、炭や生ゴミの放置など、マナー違反者が増加し、巡視員によるチラシ配布や注意喚起など対策を強化しても違反者が後を絶たないため、緑地内全域でのバーベキュー利用を禁止することとしました。（施行日：平成27年4月17日）

効果：生ゴミ、炭の放置の減少に伴う野生動物や河川への負荷の低減。火や煙の無い清浄な環境の実現。

駐車場の長時間利用者の減少で、駐車場利用が円滑化し、親子連れなどの来園が増加。



バーベキュー禁止後の状況



(参考)

国営アルプスあづみの公園

1 計画概要

計画面積	堀金・穂高地区 100ha (44ha：平成27年4月1日現在)
(うち供用面積)	大町・松川地区 253ha (104ha：平成27年4月1日現在)
位置	長野県安曇野市、大町市、北安曇郡松川村
都市計画決定年	平成2年11月
テーマ	〔自然と文化に抱かれた豊かな自由時間活動の実現〕 〔自然の中で感性を育む遊・創・空間〕



2 経緯

平成 2年 4月 事業採択

- 平成 2年 7月 基本計画策定
- 平成 2年 8月 長野国道工事事務所安曇野分室設置
- 平成 2年11月 都市計画決定
- 平成 4年 2月 用地買収着手
- 平成 5年 4月 国営アルプスあづみの公園工事事務所設置
- 平成10年10月 工事着手
- 平成16年 7月 堀金・穂高地区一部開園(約27ha)
- 平成21年 7月 大町・松川地区一部開園(約79ha)
- 平成25年 9月 大町・松川地区追加開園(約25ha)
- 平成26年 4月 堀金・穂高地区追加開園(約17ha)
- ※平成28年 6月 全園開園予定

3 入園者の推移 (全体)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
堀金・穂高地区	19万人	22万人	23万人	28万人	28万人	28万人	30万人	32万人	29万人	25万人	24万人
大町・松川地区	—	—	—	—	—	17万人	14万人	16万人	18万人	14万人	13万人
合計	19万人	22万人	23万人	28万人	28万人	45万人	44万人	48万人	47万人	39万人	37万人

4 堀金・穂高地区の状況



あづみの学校エントランス



展望テラスより望む「だんだん池」



段々原っぱ沿いの花修景

5 堀金・穂高地区 「里山文化ゾーン」について (平成28年6月開園予定)

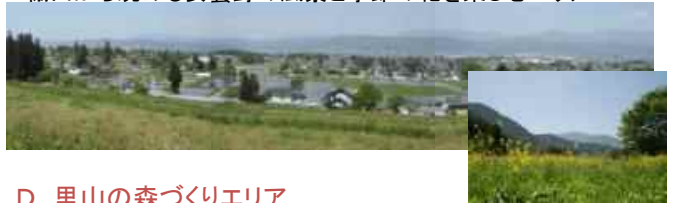
A 懐かしの風景エリア

戦前から維持されている耕作地の形状を保全し、昔ながらの風景を再生するエリア



B 棚田エリア

棚田から眺める安曇野の風景と季節の花を楽しむエリア



D 里山の森づくりエリア

森づくりに様々な主体が関わって取り組むエリア

C 里山文化再生エリア

新旧の耕作地の跡、背後の森、山麓の畑地を活かし、プログラムの実施等を通じて体験・学習の機会を提供していくエリア



道路・河川愛護活動

安曇野建設事務所は、県民の環境美化意識の高まりを背景に、道路・河川などは地域住民の共有財産という認識の下、信州ふるさとの道ふれあい事業（アダプトシステム）と河川愛護活動支援事業を実施しています。

地域環境の保全を目的に、地域の皆様との協働による道路の植栽管理や路肩の除草や清掃、河川の除草や清掃などを行い、魅力ある地域づくりに取り組んでいます。

1 地域住民の皆様による道路の環境美化

(1) 信州ふるさとの道ふれあい事業（アダプトシステム）について

「アダプト」とは「養子縁組をする」という意味です。住民が道路などの公共スペースを、養子のように愛情をもって面倒をみる（清掃・美化など）ことから命名されました。自治体と住民がお互いの役割分担について協定を結び、継続的に美化活動を進める制度です。1985年、アメリカでハイウェイのボランティア清掃活動として始まりました。

(2) 事業の概要

長野県では、平成15年度から信州ふるさとの道ふれあい事業（アダプトシステム）を本格的に実施しています。地域住民団体等が道路の里親になり、里親・市町村・建設事務所による三者協定に基づいて、里親はボランティアで、歩道、待避所、法面等の清掃、草刈り等の美化活動や、植樹帯等の維持管理を行い、市町村・建設事務所の活動を支援します。

(3) 管内の事業参加団体

地域	参加団体	代表者	参加人数	区 画	延長m	活動内容	里親名	協定締結日
種高	中野線道路愛護会	宮澤 伸弘	70	宮城 ～ 中野温泉	12,000	草刈り・植込み等	(一)種ヶ岳 美村緑	H 15. 11. 27
種高	高倉美望の里委員会	白澤 多郎	30	須崎 ～ 豊田	600	雑草等の草刈り等	(一)豊科 大矢井昌雄	H 15. 1. 26
種高	岩原地区住民協定委員会	岡口 謙二	46	岩原	700	雑草等の草刈り等	(一)豊科 大矢井昌雄	H 15. 1. 26
豊科	アルプス花街道実行委員会	等々力 秀和	113	寺前 ～ 豊科	3,000	草刈り・花壇の維持	(一)穂高町 田沢(株)緑	H 15. 2. 15
豊科	安曇野真々部・小倉・梓橋里親形成委員会	竹内 善英	15	真々部	500	草刈り・花壇の維持	(一)小倉 梓橋(株)緑	H 15. 2. 15
種高	穂高駅前通り住民協定地区	北野 朝義	46	穂高駅前通り	360	草刈り・花壇の維持	(一)穂高 穂高(株)緑	H 15. 12. 20
種高	フラワーロード田多井	藤田 圭子	35	田多井	500	草刈り・花壇の維持	(主)塩尻鍋割穂高緑	H 22. 5. 24
豊科	アルプス花街道実行委員会	等々力 秀和	80	下島町～吉野	500	草刈り・花壇の維持	(主)141号	H 22. 5. 9
種高	岩原ひまわりクラブ	尾日向 洋	15	岩原	100	草刈り・花壇の維持	(主)塩尻鍋割穂高緑	H25. 7. 2
種高	有明高原部	田川 謙一	30	宮城	2,000	草刈り・清掃	(一)種ヶ岳 美村緑	H25. 4. 1
	り団体10団体		1,070		17,760			

当管内の里親は、平成28年2月末現在、9団体が協定を締結し活動しています。

この事業は、以前から多くの地域で行われている道路愛護活動を、一歩進めた形の活動として、住民と行政の協働・連携による維持管理活動の推進に大きな役割を果たしています。

今後は、これまでの活動内容に加え、花苗の育成など、里親も主体的で多様な活動を支援することにより、事業の魅力を高め、より多くの参加が得られるよう取り組んでいきます。



平成25年7月 事業参加団体との調印式
(岩原ひまわりクラブ・安曇野市・長野県 三者協定)



フラワーロード田多井・活動状況
(主要地方道塩尻鍋割穂高線)

2 河川愛護活動支援事業

(1) 事業の目的

地域住民と連携・協働し、河川の美化、アレチウリ等の特定外来生物の駆除活動を行い、河川環境の保全を図るとともに、河川に対する愛護意識の向上を目指します。

(2) 河川美化の取り組み

河川の清掃、草刈り、花の植栽等を定期的に行いながら、地域の環境美化の向上に努めています。

平成23年からは、「河川愛護活動支援事業」を活用しながら、取り組みを進めている状況であり、地域の河川愛護団体による河川の清掃美化活動を支援しています。

(3) 管内の事業参加団体

当管内の河川愛護団体は、平成28年2月末現在、10団体が協定を締結し活動しています。

今後、河川愛護活動の普及拡大を図るとともに、すでに実施している河川愛護活動においてもアレチウリ（外来植物）等の駆除に取り組めるよう支援していきます。

地域	参加団体	代表者	構成 人員数	対象河川名	区 間	活動 延長 (m)	活動内容	設立 年月日
豊科	中曾根川河川愛護会	等々力秀和	600	中曾根川	スイス村～万水川	1,200	ゴミの回収 清掃・草刈り 花の植栽	H6.10.3
穂高	穂高川河川愛護会	布野 起	25	穂高川	穂高橋～安曇野大橋	5,000	ゴミの回収 清掃・草刈り 花の植栽	H4.8.25
明科	木戸河川愛護会	滝沢 良水	40	潮沢川	犀川合流点～潮沢川木戸	200	ゴミの回収 清掃・草刈り 花の植栽	S35
明科	荻原区	山崎 輝展	210	蜂ヶ沢川	犀川合流点 ～蜂ヶ沢砂防公園	—	ゴミの回収 清掃・草刈り 花の植栽	H13.4.1
明科	上押野区	大石 昭明	731	高瀬川	上押野地籍	—	ゴミの回収 清掃・草刈り 花の植栽	H13.4.1
明科	下押野河川愛護会	矢花 正一	28	高瀬川	安曇橋～犀川合流点	500	ゴミの回収 清掃・草刈り 花の植栽	S42.7.10
穂高	三角島ふるさとの森プロジェクト	堀々 洋介	15	万水川	三角島	800	ゴミの回収 清掃・草刈り 花の植栽	H21.3.27
豊科	細萱区	飯沼 英明		万水川 帯広川	細萱地籍	—	ゴミの回収 清掃・草刈り 花の植栽	H25.5.22
穂高	狐島区	小林 俊六		高瀬川 穂高川	狐島地籍	—	ゴミの回収 清掃・草刈り 花の植栽	H26.5.13
明科	明科潮地区	矢澤 久男		会田川	潮地籍	—	ゴミの回収 清掃・草刈り 花の植栽	H27.4.28



平成21年3月 河川愛護団体との調印式
(三角島ふるさとの森プロジェクト・安曇野市・長野県 三者協定)



狐島区・活動状況(高瀬川 アレチウリ駆除)

犀川安曇野流域下水道事業の概要

1 計画概要

- (1) 事業区分と主体 : 処理場と幹線管渠は県が、面整備は関連の市町村が施工。
- (2) 関連市町村 : 松本市(旧梓川村)、安曇野市(旧豊科町、旧穂高町、旧三郷村、旧堀金村)
- (3) 経緯
- | | |
|--------|--|
| 事業着手 | 平成3年度 (H4.3月) |
| 一部供用開始 | 平成9年12月1日 (豊科町、穂高町)
平成10年5月1日 (堀金村)
平成11年10月1日 (梓川村、三郷村) |
- (4) 計画目標年次 : 平成42年度 (下水道法、都市計画法事業認可:平成28年度まで)

2 全体計画及び実施状況

【H26年度末】

	全体計画	平成26年度末	進捗率
計画処理面積	3,937 ha	3,371 ha	85.6 %
計画処理人口	94,570 人	95,856 人	※2 93.3 %
計画処理水量	5系列 42,000 m ³ /日	5系列 ※1 42,000 m ³ /日	100.0 %
幹線数・延長	8幹線 51.2 km	8幹線 51.2 km	100.0 %
中継ポンプ場	2 箇所	2 箇所	100.0 %
概算事業費	442 億円	371.0 億円	83.9 %
管渠	154	153.5	99.7 %
処理場	288	217.5	75.5 %
関連公共下水道概算事業費	894	794	88.8 %

※1 処理能力

※2 普及率

普及率: 処理区域内人口/行政人口 = 93.3%

3 事業計画

平成25年度	工事 消化ガス発電施設建設工事 委託 長寿命化計画策定業務
平成26年度	工事 水処理第5系列覆蓋建設工事 委託 中央監視制御装置改築実施設計
平成27年度	工事 水処理第5系列覆蓋建設工事 中央監視制御装置改築工事
平成28年度以降	処理場 中央監視制御装置改築工事 ポンプ棟耐震補強工事 他

4 関連公共整備状況

【H26年度末】

地区	全体計画面積(ha)	整備面積(ha)	処理面積(ha)	処理区域内人口(人)	水洗化人口(人)	行政人口(人)	普及率※1(%)	水洗化率※2(%)
松本市(梓川)	374.4	373.7	373.7	12,931	11,563	13,002	99.5%	89.4%
安曇野市(豊科)	974.9	942.7	942.7	27,602	23,451	27,711	99.6%	85.0%
安曇野市(穂高)	1,578.0	1,110.5	1,110.5	27,430	19,062	33,896	80.9%	69.5%
安曇野市(三郷)	549.8	541.8	541.8	18,561	15,993	18,720	99.2%	86.2%
安曇野市(堀金)	459.9	402.0	402.0	9,332	7,512	9,360	99.7%	80.5%
合計	3,937.0	3,370.7	3,370.7	95,856	77,581	102,689	93.3%	80.9%

※1 普及率(処理区域内人口/行政人口)

※2 水洗化率(水洗化人口/処理区域内人口)

5 処理場整備状況



2 地域からの声

10周年を迎えた安曇野建設事務所に寄せていただいた地域の関係機関の皆さんからのお声を紹介します。今後も関係機関の皆さんと連携し、地域に密着した建設行政を推進します。

「田園産業都市」実現のため、地域に密着して事業推進を



安曇野市都市建設部長 横山 正

安曇野建設事務所設立10周年おめでとうございます。

安曇野市都市建設部では、市民が安全・安心で、快適な暮らしを続けることができるように、利便性の高いまちづくりの推進、土地利用の規制誘導、景観の保全と共に、産業や生活の基盤を支える社会資本の整備を推進しています。

安曇野建設事務所におかれましては、安全で安心して暮らせ、豊かで持続可能な地域づくりを進めるため、社会基盤の整備を進めていただいていることに感謝申し上げます。

本市が目指す「田園産業都市」の実現に向け、河川整備や砂防事業による「防災力の向上」、通学路歩道整備などによる「住環境の整備」、市内交通網充実にに向けた道路整備などによる「交通ネットワークの充実」など、安曇野建設事務所に担っていただく事業は、盛りだくさんです。

安曇野の豊かな自然環境や景観、歴史・文化を守り、暮らしやすさと産業振興のバランスのとれたまちづくりを進めるため、今後も、地域に密着した現地機関として、安曇野市民の要望に迅速に対応していただくと共に、本市との連携をより強化し、事業推進していただきますようお願い申し上げます。



通学路を関係機関合同で安全点検（平成28年2月）

これからも安曇野の清らかな水環境のためにご尽力を



安曇野市上下水道部長 竹花 顕宏

安曇野建設事務所が設立 10 周年を迎えられたことについて、お祝い申し上げます。

安曇野建設事務所が所管されている犀川安曇野流域下水道は、安曇野市の豊科、穂高、三郷、堀金地域と松本市の梓川地域における汚水の広域的な処理を担っていただいております。業務の開始以降、適切な水処理はもとより効率的な事業運営に努められていることに対して厚くお礼申し上げます。

安曇野の清らかな水の流れは、のどかな田園風景の形成を担うとともに、わさびの栽培やニジマスの養殖など地域産業を支えておりますが、流域下水道の設置により、安定かつ効率的な水処理を通じて、この安曇野の清らかな水環境が保たれていることは、衆目の一致するところではあります。

下水道事業を取り巻く環境は、人口の減少や施設の老朽化対策など今後益々厳しさを増していくものと考えます。加えて、平成 26 年 11 月に発生した長野県神城断層地震では、地元の下水道施設も大きな被害を受け、住民生活に多大な支障が生じたことは記憶に新しいところです。

貴所におかれましては、今後も地域住民の方々が安心して下水道を利用できるよう施設の長寿命化や耐震対策など適切な維持管理にご尽力いただくとともに、当市が進めている『環境に優しいまちの形成の実現』に向け、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

交通安全対策のベストパートナーとして



安曇野警察署 署長 清水 英明

安曇野建設事務所として 10 周年を迎えられましたことを衷心よりお慶び申し上げます。すでに御案内のとおり、交通安全対策の基調をなす 3 E の原則とは、「3 つの E」、すなわち①交通安全教育 (Traffic Safety Education) ②交通工学 (Traffic Engineering) ③交通法令の執行 (Traffic Law Enforcement) のそれぞれの頭文字の E をとったものです。特に、②交通安全工学ですが、これには道路工学、自動車工学等が含まれ安全な道路環境を確保する上での科学的な裏付けとなるものです。実は、この分野に、警察、道路管理者等が関わっているのです。道路管理者としての安曇野建設事務所の皆様には、主要幹線道路の交通安全対策に昼夜を分か

たず携わっていただいております。その一例としまして交通事故発生現場における道路照明の設置、道路へのドットライン、減速マークの表示などであります。こうした対策により同所での同様の交通事故は発生しておりません。こうした対応を早期に執っていただいていることにつきまして、大変感謝いたしております。

また、所長様をはじめ皆様の御理解のもと、少年警察ボランティアの皆さんと豊科北小学校の児童の皆さんとの協働による地域ふれあい植栽活動（花壇造り）にも庁舎敷地内を提供いただくなど少年の健全育成にも一役買っていただいております、重ねて感謝申し上げます。

こうした貴事務所の皆様の地域への御貢献は、安曇野にとってなくてはならない大切な拠り所となっております。末永く当地において御活躍なされることを御祈念申し上げますとともに、これからも我々のベストパートナーとして交通安全対策にお力添えいただきたくお願い申し上げます。



平成 27 年6月 12 日

**地域ふれあい植栽活動
安曇野庁舎駐車場にて**



平成 27 年 11 月5日

3 安曇野建設事務所の歴史

(1) 組織の変遷 (平成 17 年 10 月まで)

年月日	組織の変遷
明治 33 年 4 月 12 日	第 5 工事監督区と改称、東筑摩郡、南安曇郡、安曇村を担当する。
明治 40 年 7 月 16 日	第 4 工区と改称。
明治 44 年 1 月 6 日	松本工区とされ、区域は松本、西筑摩郡、東筑摩郡、大町工区所属犀川沿岸を除く南安曇郡安曇村及び梓川沿岸。
大正 12 年 3 月	郡制廃止後、大町工区豊科出張所とされる。区域は安曇、奈川を除く郡一円。
大正 15 年 6 月	松本工区豊科出張所とされる。区域は安曇、奈川を除く郡一円。
昭和 4 年 4 月	豊科工区事務所と改称。
昭和 8 年 7 月 1 日	豊科土木出張所と改称。主幹は所長となる。
昭和 25 年 2 月 1 日	行政機構改革により、豊科建設事務所と改称し、庶務、工務の 2 課を置く。
昭和 33 年 6 月 1 日	出先関係機関組織整備により、係を設置、庶務課に庶務係・管理係、工務課に工務係・調査係を置く。係長制を実施する。
昭和 37 年 4 月 16 日	工務課を設計課・工事課に分け、設計係・調査係・工事係・補修係と 2 課 4 係となる。
昭和 40 年 4 月 1 日	庶務課を総務課と改称。
昭和 43 年 4 月 1 日	総務課に用地係を置く。
昭和 46 年 4 月 1 日	総務課に会計係を置く。
昭和 47 年 4 月 1 日	総務課用地係を用地課とする。
昭和 49 年 11 月 1 日	関連事業課を設置する。
昭和 51 年 4 月 1 日	機構改革により、総務課・管理計画課・建設課・用地課・関連事業課の 5 課制とし、総務課に庶務・会計の 2 係、管理計画課に管理・計画調査・維持の 3 係、建設課に設計・工事の 2 係を置く。
昭和 54 年 4 月 1 日	次長制を実施する。(総務課長兼務)
昭和 55 年 4 月 1 日	用地課に係を置く。
昭和 60 年 4 月 1 日	関連事業課に係を置く。
昭和 62 年 11 月 1 日	南安曇庁舎へ移転。
平成元年 3 月 31 日	関連事業課を廃止。
平成 5 年 4 月 1 日	管理計画課に公園下水道係を設置、用地課の用地係を用地第一係と用地第二係の 2 係制とする。
平成 7 年 4 月 1 日	管理計画課公園下水道係を公園下水道課とし、公園整備係・流域下水道係の 2 係を置く。
平成 17 年 4 月 1 日	係制を廃止し、ユニット制へ。
平成 17 年 10 月 1 日	安曇野市発足に伴い、豊科建設事務所を安曇野建設事務所と改称。



昭和 50 年頃の豊科建設事務所

(2) 豊科建設事務所時代の主なできごと

○写真掲載

年月日	主なできごと
○昭和 25 年 2 月	豊科土木出張所を改称し、豊科建設事務所が誕生する。
○昭和 26 年 4 月	中小河川改修事業として穂高川河川改修に着手。
昭和 33 年 4 月 1 日	道路愛護団体「中房線道路愛護会」設立。
○昭和 34 年 8 月 13 日	台風 7 号。県下に戦後最大の被害をもたらす。続けて 9 月に伊勢湾台風が来襲。
○昭和 43 年 4 月	万水川河川改修事業着手（平成 20 年度完成）
昭和 44 年 4 月	「道路災害による事故防止実施要領」に基づく道路情報モニターを（一）槍ヶ岳矢村線で 2 名に依頼。（H27 現在、国道 147 号等 2 路線 2 名追加）
○昭和 45 年 11 月	烏川 須砂渡砂防ダム完成 H=20.0m、L=136.3m
昭和 47 年 9 月 27 日	台風 20 号。穂高地域で穂高川の堤防が決壊。
昭和 48 年 10 月	黒沢砂防ダム完成 H=24.0m、L=101.6m
昭和 57 年 4 月	あづみ野やまびこ自転車道〔（一）穂高松本塩尻自転車道線〕事業着手
昭和 57 年 9 月 11 日	台風 18 号。明科地域で土砂崩れ、地すべり被害が続発。
昭和 58 年 3 月	烏川左支 一の沢砂防ダム完成 H=35.0m、L=97.0m
昭和 58 年 9 月 28 日	台風 10 号。明科、穂高地域で床上、床下浸水の被害。
昭和 60 年 7 月 9 日	長梅雨に加え台風 6 号による土砂災害が豊科光地籍地で続発。
昭和 61 年 12 月	都市計画道路事業呉羽通り線立体交差工事完成 L=480m（豊科町成相）
昭和 62 年 8 月	（主）塩尻鍋割穂高線 烏川橋架替完成 L=74.0m
昭和 62 年 4 月	県営公園 烏川溪谷緑地事業計画着手
○昭和 62 年 11 月	安曇野庁舎（南安曇庁舎）竣工
昭和 63 年 7 月	（一）柏矢町田沢（停）線 道路改築事業（豊科 IC アクセス）完成
昭和 63 年 8 月 3 日	長野自動車道松本～豊科 IC 開通
○平成 2 年 10 月	国営アルプスあづみの公園 堀金・穂高地区のうち烏川溪谷沿いの 150ha について、国営公園と一体的に整備すべき地区として県都市公園とすることを都市計画決定。
平成 3 年 4 月	黒沢川の治水・利水対策に係るダム建設事業採択。
平成 3 年 6 月 15 日	IOC 総会にて長野オリンピック開催決定
平成 3 年 11 月	烏川 大平原砂防ダム完成 H=30m、L=103m
平成 3 年 12 月	（主）豊科インター堀金線 第一川手街道踏切除却完成 L=481m
○平成 4 年 3 月	犀川安曇野流域下水道事業着手
平成 4 年 4 月	県営烏川溪谷緑地 事業認可
平成 4 年 12 月	（主）穂高有明線 安曇橋架替完成
平成 5 年 3 月	富士尾沢川 ふるさと砂防事業（親水公園）完成 L=446.5m
平成 5 年 4 月	北アルプスパノラマロード〔（一）有明大町線、高瀬川右岸道路〕事業着手
平成 6 年 12 月 16 日	松本糸魚川連絡道路「候補路線」指定（波田町～糸魚川市）
平成 8 年 4 月	穂高川 河川環境整備（遊歩道、四阿等設置）完成
平成 9 年 3 月	北アルプスパノラマロード開通 全体 L=約 16km、管内延長約 4.6km



昭和 25 年 2 月 豊科建設事務所が誕生※
県蚕業取締所南安曇支所から事務所を借用

※写真:安曇野市教育委員会所蔵



昭和 26 年 4 月
穂高川 中小河川改修に着手



昭和 34 年 9 月 26~27 日 台風 15 号
(伊勢湾台風)により常盤橋が被災



昭和 43 年 4 月
万水川 河川改修事業着手



昭和 45 年 11 月
烏川 須砂渡砂防ダム完成



昭和 62 年 11 月 安曇野庁舎竣工



H2 年 10 月 烏川溪谷緑都市計画決定
(黄色 烏川溪谷緑地計画区域)

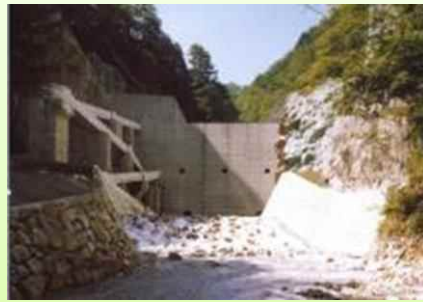


H4 年 3 月
犀川安曇野流域下水道事業着手

年月日	主な出来事
平成 9 年 12 月	犀川安曇野流域下水道 豊科町と穂高町の一部を供用開始（水処理施設第 1 系列 暫定供用）
平成 10 年 3 月	（主）松本環状高家線 倭（やまと）橋架替完成*
○平成 10 年 4 月 10 日	国道 147 号高家バイパス一部供用開始
平成 10 年 5 月	犀川安曇野流域下水道 掘金村の一部を供用開始。
平成 10 月 6 日 16 月	松本糸魚川連絡道路「計画路線」指定 （波田町～糸魚川市）
○平成 10 年 10 月	中房川 中房砂防ダム完成 H=28.5m、L=54.8m
○平成 11 年 10 月	犀川安曇野流域下水道 梓川村と三郷村の一部を供用開始。（関連全町村で部分供用開始）
平成 11 年 12 月 17 日	松本糸魚川連絡道路「調査路線」指定 （掘金村～大町市）
平成 12 年 3 月 9 日	「あづみの排水路（L=2,887m）」農業水利事業所長（農水省）と豊科建設事務所長の間で共同工事確認書締結
平成 12 年 4 月	農免道路沿いに道の駅「アルプス安曇野ほりがねの里」完成。
○平成 12 年 5 月	（一） 原木戸安曇追分（停）線 高瀬橋架替完成
○平成 13 年 1 月	国営アルプスあづみの公園アクセス道路 光橋工区供用開始 L=1,080m
平成 13 年 2 月 20 日	脱ダム宣言。黒沢川のダム計画も治水・利水ダム等検討委員会の対象となる。
○平成 14 年 3 月	住宅宅地関連公共施設整備促進事業（砂防事業） 豊科町 高松沢 遊砂池等完成。遊砂池（3池）L=160m、流末処理工 L=320m
平成 14 年 4 月	県営烏川溪谷緑地 水辺エリア開園 面積 15.7ha
平成 15 年 3 月	国営アルプスあづみの公園アクセス道路 光橋工区以西の市道区間及び県施工細萱工区供用。 （一） 原木戸安曇追分（停）線 道路改築完成。H12 完成の高瀬橋への取付道路。
平成 15 年 11 月	「信州ふるさとの道ふれあい事業（アダプトシステム）」の創設に伴い、中房線道路愛護会事業をアダプトシステムに引継ぎ。
○平成 16 年 2 月 5 日	県営烏川溪谷緑地「市民会議」設置
平成 16 年 4 月	土砂災害防止法に基づく基礎調査開始。平成 20 年度までに土石流、急傾斜について概ね指定完了。 県は「ハードになるべく頼らない」等、新たな土砂災害対策の基本方針として「信州・長野県における土砂災害対策のありかた」を公表。 同基本方針を受け、掘金村で事業中の小野沢砂防 2 号堰堤の建設を中止。
平成 16 年 7 月 24 日	国営アルプスあづみの公園 掘金・穂高地区一部開園。
○平成 16 年 10 月	台風 23 号に伴う豪雨災害発生。穂高富士尾沢川で流出土砂による河道埋塞に伴う浸水被害発生。
平成 17 年 4 月	県営烏川溪谷緑地 森林エリア開園 面積 34.0ha



H10年4月10日
国道147号高家バイパス一部供用開始



H10年10月 中房砂防ダム完成



H11年10月 犀川安曇野流域下水道
関連全町村で部分供用開始



H12年5月 高瀬橋架替完成



H13年1月 光橋工区供用開始



H14年3月
豊科町高松沢遊砂池等完成



H16年2月5日
県営烏川溪谷緑地「市民会議」設置



H16年10月 豪雨災害 富士尾沢川

(3) 安曇野建設事務所の10年

平成17年・18年

平成17年10月～19年3月

18年の漢字

「命」

H17年

10月1日 安曇野市発足に伴い、豊科建設事務所を安曇野建設事務所と改称、業務を開始。

H18年

4月5日 あづみ野排水路維持管理協定を安曇野市、松本市、安曇野・松本行政事務組合、安曇野建設事務所の4者間で締結。

7月19日 梅雨前線の影響で記録的豪雨。明科地区で避難勧告。万水川下流部で浸水被害が発生。

10月 犀川安曇野流域下水道 穂高第3幹線の全線供用により幹線管渠が、全線供用。

組織変遷

H18.4.1

課制を廃止し、チーム制へ。

H18.11.1

チーム・ユニットを廃止し、課係制へ

事業着手

- 国営アルプスあづみの公園 堀金・穂高地区と大町・松川地区とを結ぶ国営公園間連絡道路として (主) 塩尻鍋割穂高線、(一) 有明大町線の整備に着手。全体L=約10km



(国)403号 倒木被害



あづみの排水路の維持管理(ごみ拾い)

流域下水道幹線管渠の施工

地域の出来事	H17.10.1	安曇野市発足
	H18.6.11	安曇野市合併記念「NHKのど自慢」を穂高会館で公開生放送
	H19.3.8	三郷 黒沢に洞合自然公園が完成

長野県の出来事	○県内北部「平成18年豪雪」にみまわれる。	○国道361号権兵衛トンネル開通
	○豪雨により箕輪町で天竜川決壊、岡谷市で土石流発生	○村井仁知事就任

日本の出来事	○初のワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で日本優勝
	○福岡で飲酒運転死亡事故、飲酒運転の厳罰化進む。○第1次安倍内閣発足

世界の出来事	○トリノ冬季五輪開催	○インドネシアジャワ島で地震
	○冥王星が惑星から降格、太陽系惑星は8個に	○鳥インフルエンザによる死亡が拡大

平成 19年

平成 19年4月～20 年3月

19年の漢字

「偽」

- 6月 2日 第18回全国「みどりの愛護」のつどいが国営アルプスあづみの公園で開催。
- 7月 25日 国道147号高家バイパス「アルプス大橋」が開通。バイパス全線供用となる。
- 1月 犀川安曇野流域下水道安曇野終末処理場 消化タンク（2基）完成。



アルプス大橋開通式 子供たちの渡り初め



全国「みどりの愛護」のつどい



アルプス大橋が開通し、高家バイパス全線 4.2km がつながる。

-
- 地域の出来事** H19.8.14 安曇野花火大会を明科御宝田遊水池で初開催
-
- 長野県の出来事** ○長野市浅川の治水対策として「流水型ダム」建設方針決定
○中越沖地震、飯綱町で震度6強
-
- 日本の出来事** ○新潟県中越沖地震 ○自民党福田内閣発足
○郵政民営化、日本郵政グループ発足 ○食品偽装相次ぎ社会問題化
-
- 世界の出来事** ○米低所得者向け住宅融資（サブプライムローン）焦げ付き急増、金融不安全世界に拡大
○インドネシア・スマトラ島西部で地震
-

平成 20 年

平成 20 年 4 月～21 年 3 月

20 年の漢字

「変」

- 6 月 長野県橋梁長寿命化修繕計画（第 1 期計画）策定。安曇野建設事務所の要対策 32 橋のうち、概ね 5 年以内に 1 橋の修繕が必要とされた。
- 10 月 20 日 地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」について、長野自動車道豊科 IC 北側に直結する豊科北ルート案を、県として一番有利と評価し公表。
- 3 月 土砂災害警戒区域（土石流・急傾斜、地すべり除く）の指定完了。

事業着手

- 「常盤橋」の架替工事を含む（主）穂高明科線の道路改築に着手
- （一）田多井中萱豊科線 中萱の道路改築に着手



穂高川を渡る旧常盤橋



土砂災害防止法に伴う警戒区域等告示図面

地域の出来事	H20.4.22 碓山美術館が会館 50 周年
長野県の出来事	○三遠南信道、飯喬道路の山本 IC～天竜峡 IC7.2km 開通
日本の出来事	○後期高齢者医療制度発足 ○岩手・宮城内陸地震（震度 6） ○地球温暖化などをテーマに北海道洞爺湖サミット開催 ○自民党麻生内閣発足
世界の出来事	○ミャンマーで大規模サイクロン ○中国四川省で大地震 ○北京五輪 ○米証券大手リーマン・ブラザーズ破綻、金融不安拡大 ○インドネシアで鳥インフルエンザ死者 100 人超

平成 21 年

平成 21 年4月～22 年3月

21 年の漢字

「新」

7 月 23 日 万水川河川改修事業が 36 年余の期間を経て、完成。

組織変遷

H21.4.1
建設業許可業務を松本建設事務所へ移管、用地取得・計画調査業務を松本建設事務所へ集約する。

事業着手

- 橋梁補修 (主) 豊科 IC 堀金線 田沢橋
- 急傾斜地崩壊対策事業 桜坂小瀬幅
- 河川改修 帯広川 南穂高



急傾斜地崩壊対策事業 桜坂小瀬幅

上:急傾斜地

右:土砂災害警戒区域等告示図面



万水川 最下流工区



橋梁補修 田沢橋 (舗装補修後)

地域の出来事 H21.4.10 旧国鉄篠ノ井線漆久保トンネルが散策路として再び開通。
5. 2 穂高神社大遷宮祭開かれる。
10. 11 安曇野市長に宮澤宗弘氏当選

長野県の出来事 ○浅間山が小規模噴火 ○国営アルプスあづみの公園 大町・松川地区一部開園

日本の出来事 ○裁判員制度施行 ○総選挙で民主党圧勝、鳩山連立内閣発足
○行政刷新会議の事業仕分け始まる ○新型インフルエンザ国内大流行

世界の出来事 ○米、初の黒人大統領オバマ氏就任 ○新型インフルエンザ世界で猛威

平成 22 年

平成 22 年4月～23 年3月

22 年の漢字

「暑」

- 4月1日 県営烏川溪谷緑地の管理に指定管理者制度を導入
- 7月13日 15日までの降雨により高萩地区で地すべり発生。国道143号通行止め。
- 8月4日 中房線道路愛護会が「道路ふれあい月間」国土交通大臣表彰を受賞
- 9月 犀川安曇野流域下水道安曇野終末処理場 水処理施設第5系列完成。



烏川溪谷緑地 指定管理者による環境学習

事業着手

- 災害関連緊急地すべり対策 高萩



中房線道路愛護会による清掃活動



犀川安曇野流域下水道安曇野終末処理場
水処理施設第5系列完成
(H27年度には覆蓋工事が完成)



(地) 高萩地区での地すべり
国道143号が2日間通行止めとなった。

地域の出来事	H22.7.26	地下水にかかわる研究委員会発足
	9.26	県総合防災訓練が安曇野市内で開催。98団体、3,700人が参加
	11.27	長野自動車道 梓川スマートIC 開通。
長野県の出来事	○平成の大合併で県内市町村が77に	○地方独立行政法人「長野県立病院機構」発足
	○FDAによる「信州まつもと空港」路線運航開始	○阿部守一知事就任
日本の出来事	○民主党菅内閣発足	○サッカーワールドカップ南アフリカ大会で日本代表がベスト16
	○尖閣諸島沖で中国漁船が海上保安庁巡視船に衝突	
世界の出来事	○ハイチで大地震	○バンクーバー冬季五輪
	○アイスランドの火山噴火	○上海国際博覧会(万博)

平成 23 年

平成 23 年 4 月～24 年 3 月

23 年の漢字

「絆」

- 4 月 道路補修工事の初めての民間委託を明科地区で開始。H26.4.月に全地区で実施。
- 7 月 地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」の豊科北ルート of 安曇野市内ルート案を公表。地域説明会を開催。
- 9 月 6 日 建設系学科高校生の実務研修を南安曇農業高校で初めて実施。
- 11 月 18 日 黒沢ダム事業の中止を長野県知事から国土交通大臣へ報告。

事業着手

- 交通安全（歩道整備） (一) 梓橋田沢（停）線 真々部



新たに始まった道路補修工事の民間委託による維持補修（側溝清掃）



型枠組立実習に取り組む高校生

地域の出来事	H23.4.1	安曇野市の適正な土地利用に関する条例が施行
	4.4	NHK 連続テレビ小説「おひさま」放映開始
	8.7	集中豪雨により、三郷地域の水道水に濁り発生
長野県の出来事	○長野県北部の地震で栄村が大きな被害 ○中部横断自動車道一部開通（佐久小諸 JCT～佐久南 IC）	
日本の出来事	○東日本大震災、国内観測史上最大の M9.0 ○東京電力福島第 1 原子力発電所で事故 ○女子サッカー W 杯ドイツ大会で「なでしこ JAPAN」初優勝 ○地上波テレビのアナログ放送終了、地上デジタル放送に移行 ○民主党野田内閣発足	
世界の出来事	○ニュージーランド・カンタベリー地方で大地震 ○タイ中部で大規模洪水発生 ○ギリシャの財政危機欧州各国に波及	

平成 24 年

平成 24 年4月～25 年3月

24 年の漢字

「金」

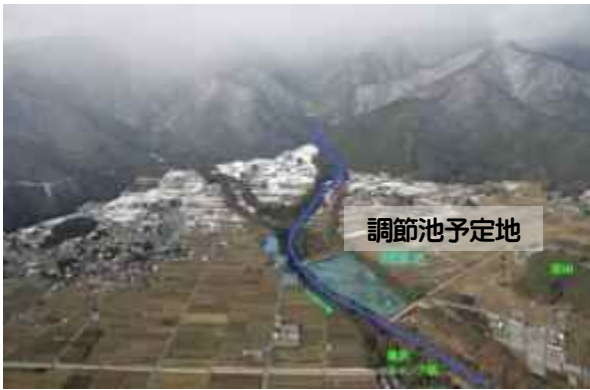
- 7月 京都府亀岡市で発生した交通事故を受け、管内通学路の交通安全の確保に向けた緊急合同点検を実施し、必要な対策に着手。
- 7月23日 国土交通大臣が黒沢ダム事業の中止を決定。
- 10月7日 長野自動車道豊科 IC から安曇野 IC に名称変更。
- 12月12日 黒沢川河川整備計画 認可
- 2月5日 第1回豊科まちづくりワークショップ開催。豊科地域まちづくりの取組みに着手。
- 2月25日 若手技術者等所長表彰の表彰式を初めて開催。

組織変遷

H24.4.1 用地取得・計画調査業務について、松本建設事務所への集約を解消。

事業着手

- 急傾斜地崩壊対策事業 有明苑
- 交通安全（歩道整備）
（国）147号 神田町北 [2期工事]



黒沢川全景



IC 地点名称変更作業



- 地域の出来事 H24.4.28 「ほりで一ゆ～四季の郷」の大規模改修工事が完了。営業再開。
- 6.27 安曇野市が松本山雅 FC に資本参加。ホームタウンに。
- 12.20 豊科地域の「線引き制度」が廃止。土地利用制度が統一される。

- 長野県の出来事 ○「長野県移住・交流センター」開所 ○浅川ダム定礎式挙行
- 県内プロスポーツ4チームと「スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定」締結
- 「長野技能五輪・アビリンピック 2012」が松本市・諏訪市・長野市で開催

- 日本の出来事 ○東京スカイツリータウン開業 ○中央自動車道笹子トンネルで崩落事故
- 総選挙で自民党圧勝、第2次安倍内閣発足

- 世界の出来事 ○北朝鮮の朝鮮労働党第1書記に金正恩氏就任
- ロシア大統領にプーチン氏が3度目の就任 ○ロンドン五輪
- 米オバマ大統領再選 ○中国共産党総書記に習近平氏就任

平成 25 年

平成 25 年4月～26 年3月

25 年の漢字

「輪」

6月

長野県道路の長寿命化修繕計画を策定

- ・第2期橋梁長寿命化計画（安曇野建設事務所）

要対策橋梁 39 橋のうち、H29 年度までに 9 橋の修繕を実施する。

- ・緊急輸送路の吹付法面長寿命化修繕計画（〃）

要対策法面吹付 7 箇所のうち、H29 年度までに 2 箇所の修繕を実施する。

2月14・15日 豪雪により全県で交通に大きな影響。

事業着手

- 道路改築（主）塩尻鍋割穂高線 塚原
- 交通安全（歩道整備）
（主）安曇野インター堀金線 田尻



橋梁点検の様子
(信濃坂橋)



田尻地区で
用地境界を
立ち会う



懸命に
除雪を急ぐ

地域の出来事 4月1日 地下水の保全・涵養及び適正利用に関する条例が施行

- 長野県の出来事
- 長野県の平均寿命が男女とも日本一に（男 80.88 歳、女 87.18 歳）
 - 「しあわせ信州創造プラン（長野県総合 5 か年プラン）」がスタート
 - 「満蒙開拓平和祈念館」が阿智村に開館

- 日本の出来事
- 「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」が世界文化遺産登録
 - 2020 夏季五輪・パラリンピックの開催地に東京が決定
 - 台風に伴う記録的豪雨により伊豆大島で大規模土石流発生

世界の出来事 ○中国での微小粒子物質（PM2.5）を含む濃霧の発生日数が過去 50 年で最多

平成 26 年

平成 26 年 4 月～27 年 3 月

26 年の漢字

「税」

- 4 月 1 日 犀川安曇野流域下水道安曇野終末処理場にて消化ガス発電施設稼働。
- 5 月 3 日 (一) 槍ヶ岳矢村線 (中房線) 西中小屋沢下で岩盤崩壊。全面通行止めとなり、登山客等が一時足止め。
- 8 月 1 日 安曇野市が有料道路利用者住民向けに回数券の割引販売開始。県では市への割引分一部助成を開始。

事業着手

- 流域治水対策 (調整池) (一) 黒沢川 黒沢
- 交通安全 (歩道整備) (一) 中堀一日市場 (停) 線 温 [2 期工事]



消化ガス発電施設稼働。
処理場維持管理費用の縮減と温暖化対策に貢献



(一) 槍ヶ岳矢村線の崩落現場
崩落翌日に片側交互通行で運行再開

地域の出来事 6 月 28 日 高家スポーツ広場完成

1 月 22 日 安曇野市新本庁舎、防災広場竣工式開催

長野県の出来事 ○ 南木曾町土石流災害 ○ 茅野市の「仮面の女神」が県内 8 番目の国宝に
○ 「銀座 NAGANO」オープン ○ サッカー松本山雅 FC の J 1 昇格決定
○ 御嶽山噴火災害 ○ 長野県神城断層地震

日本の出来事 ○ 消費税 5% から 8% に増税 ○ 「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界文化遺産登録
○ 広島市北部で集中豪雨による大規模土砂災害発生

世界の出来事 ○ ソチ冬季五輪開催 ○ ロシアがウクライナのクリミア自治共和国を併合
○ 韓国の旅客船「セウォル号」沈没
○ WHO が西アフリカを中心に感染が拡大したエボラ出血熱で緊急事態宣言

平成 27 年

平成 27 年 4 月～28 年 3 月

27 年の漢字

「安」

- 4 月 1 日 流域下水道維持管理の県直営化に伴い、「犀川安曇野流域下水道事務所」を安曇野建設事務所の付置機関として設置。
- 4 月 17 日 県営烏川溪谷緑地におけるバーベキュー利用の禁止を施行。
- 7 月 21 日 道路改良「常盤橋」の架替工事完了。開通式開催。
- 9 月 16 日 「歩こう！走ろう！観光地の歩道グレードアッププラン」対象箇所に碌山美術館・わさび畑周辺の（一）穂高（停）線と（主）穂高明科線の 2 路線が選定される。
- 1 月 29 日 松本糸魚川連絡道路の(仮称)安曇野北 IC から大町市街地南までの計画案を公表。



犀川安曇野流域下水道事務所
開所式

事業着手

- 砂防緊急改築
黒沢川 安曇野市 三郷小倉
- 道路防災
（一）槍ヶ岳矢村線 中房～宮城



松本糸魚川連絡道路計画案の公表



常盤橋 開通式

- 地域の出来事** H27.4.15 市内初のラウンドアバウト交差点（本村「円」）開通
 6.7 「第 1 回信州安曇野ハーフマラソン」開催
 8.28 「全国水環境保全市町村連絡協議会全国大会（名水サミット）」開催

- 長野県の出来事** ○ 北陸新幹線金沢延伸、「北しなの線」開業
 ○ 「県民栄誉賞」創設、初の受賞者は小澤征爾氏
 ○ 上松町出身の御嶽海関が 39 年ぶりに長野県出身幕内力士に

- 日本の出来事** ○ 錦織圭が男子テニス世界ランキング 4 位に ○ 安全保障関連法案成立
 ○ 台風の影響による大雨により鬼怒川堤防決壊
 ○ 「環太平洋連携協定」（TPP）の妥結を大筋合意 ○ 「マイナンバー」法施行

- 世界の出来事** ○ ネパール中部で M7.8 の地震発生 ○ ミラノ国際博覧会（万博）開催
 ○ パキスタン南部で熱波 ○ 米国・キューバ 54 年ぶり国交回復
 ○ パリで同時多発テロ事件発生

4 これからの安曇野へ ～ 職員からのメッセージ ～

これから安曇野の建設行政に携わる皆さんに向け、現在の安曇野建設事務所職員から、「これからの安曇野」がこうあって欲しいとの願いをメッセージに託してお贈りします。

安曇野は山紫水明の代名詞の地、風光明媚な地に即した建設行政を踏襲し、先達の歴史と新しい文化を未来永劫まで伝えてください。

自然を大切にし、自然と共生する里。過度な利便性を追い求めることなく、この恵まれた環境に感謝し、ゆとりと心の充足がある街。

世界に誇れる安曇野ブランドの観光、農業、製造業等が栄え、豊かな暮らしで「まちなか」が賑わい、人々が交流する都市「安曇野」

安曇野は、自然の宝庫である長野県の中でも特にネームバリューのある地域。この地がいつまでも、安曇野らしさを失いませんように！



中部縦貫・松糸道路の完成に伴い安曇野へ多くの観光客が訪れていることでしょう。道路下水道等の社会資本の維持管理をよるしく。

日本人も外国人も、「信州といたら安曇野。」というくらい『信州安曇野』のブランドイメージが広く定着することを願います。

安曇に暮らし半世紀、甚大な天変地異もなく暮らして来ました。豊かな自然環境と不自由ない生活環境が持続する事を願います。

安曇野の自然、景観を守ることも重要であるが、高齢化した人々が安全で快適に生活できる優しさに満ちた安曇野であってほしい。



安曇野の「豊かな自然環境や景観」と調和し、「安全・安心な暮らしを支える社会資本整備」の着実な積み重ねをお願いします。

高齢者はもちろん全世代が安心・安全に暮らすことができ、魅力ある街になるようインフラ整備をお願いします。

『安曇野』ブランドをイメージしたまちづくりが進み、今以上に観光客で溢れる素敵な街になりますように！

流域下水道幹線管渠は、老朽化や腐食により維持管理が大変と思いますが、清らかな水環境を保全するため適正管理をお願いします。

いつまでもキレイな景色と水が残り、全国から観光客が訪れるような場所であって欲しいです。

安曇野市の子どもたちにとって安心な生活空間を確保し、地元へ愛着を持てるようなインフラ整備を進めていただきたいと思います。

安曇野の豊かな水環境を守るため、下水道は貢献し続けていますか？目立たずとも地道な維持管理に力を注いでください。

この先何十年後も、白鳥の集う自然いっぱいの豊かな安曇野であるために不可欠な水環境の保全と整備をよろしくお願い致します。



下水道の未来を語っていますか？

社会資本等の「整備」だけでなく、「適正かつ継続的な維持管理」も重要であることを忘れずに。

今や、日々の暮らしに欠かせない存在となった下水道。安曇野の清流と住民の生活を守っているという誇りを持って頑張ってください。

水清く、澄み渡る空気。多くの観光客をお迎えする、あこがれの地、安曇野を縁の下で支えましょう！！



今日も、明日も、20年後も、変わらない安心・安全な安曇野であってください。

大糸線に集う鉄道ファン、背景には雄大な北アルプス、豊かな自然と風景を満喫する観光客・登山者、農業を楽しむ人々、発展する産業。ますます魅力が高まっていくと思います。

安曇野の水環境を守るため、流域下水道は地道な努力を続けていくことで人知れず地域に貢献できることを期待しています。

アートの街として多くの観光客が訪れていると思います。事務所も協力して120%の整備を。

編集後記

私たちが、自分の業務を通じて将来に向けて地域の社会資本整備を進めていくためには、私たち自身の「これまで」を認識することが疎かであってはなりません。一例を挙げれば、近年管内では大雨などに起因する激甚な災害が発生していませんが、これは先輩方が累々と取り組まれた河川や砂防の施設整備の効果が発揮されているからです。しかし、私たちは往々にしてそのような経過を学ばず、「この地域は災害が少ない地域」との認識を抱いてしまいがちです。過去の災害の状況を知り、対策の経緯と施設の現状を知らずして、仮に、今後未曾有の激甚な気象に襲われた際に対処できるかと問えば、答えは否です。

安曇野建設事務所の10年編集委員会では、『安曇野建設事務所が地域とともに進めてきた建設行政を振り返りつつ、今後の指針とすべく、「安曇野建設事務所の10年」を編纂、発行するものである』との目標を掲げ、平成27年12月から約3ヶ月、本年直近の10年に留まらず、豊科建設事務所時代からの資料も収集し、組織の変遷、現在の施策の紹介などと合わせ、できるだけ幅広く安曇野建設事務所の情報が網羅できるよう努め、編集にあたりました。また、私たちの側の視点のみならず、地域からのお声もいただきたいと考え、安曇野市様、安曇野警察署様にご寄稿をお願いしたところ、お忙しい中、快く文章を寄せていただきました。心より感謝申し上げます。さらに、資料として貴重な写真については、各委員をはじめ、多くの方のご協力により、望外に確保することができました。表紙を飾る写真については、事務所に多くの風景写真を提供いただいている市内穂高の名刹東光寺の東堂（名誉住職）でいらっしゃる若宮昭三さんからご提供いただきました。重ねて感謝申し上げます。

私たち職員には転勤があり、そこで記憶が途切れることはままありがちです。私たちの所管を本当の意味で知るには、事務所の歴史を知ることが必要ですが、そのために記録の整理・保管を日頃から行わなければならないことにも、今回の編集作業で気づかされました。本誌の内容の不足な部分については引継いでいただき、修正、加筆等継続いただければ幸いです。

今後も安曇野建設事務所が実施する建設行政が、地域に密着し、安全・安心を守りながら、安曇野市の持続的発展に貢献する上で「安曇野建設事務所の10年」が指針の1つとなることを願っております。

平成28年3月30日

「安曇野建設事務所の10年」編集委員会一同

表紙写真について

撮影者：若宮 昭三さん。昭和3年山梨県生まれ。 安曇野市穂高 東光寺東堂

若宮さんは、東光寺の東堂としてだけでなく、県老人クラブ連合会理事、安曇野市社会福祉協議会理事、安曇野市老人クラブ連合会会長など多くの役職を現在も歴任され、幅広くそしてお元気にご活躍されています。趣味の写真のキャリアは始められてから 40 年に及び、安曇野の山や花などの景色を中心に、シャッターチャンスを探して早朝から夕暮れまで各所で撮影を続けていらっしやいます。

安曇野建設事務所が在所している長野県安曇野庁舎とのご縁は、若宮さんが安曇野市防火管理者協議会の会長をされていた頃からで、多くの写真をご寄贈いただいています。その写真は庁舎内の廊下や階段を飾り、来訪者の皆様の目を楽しませていただいています。



安曇野庁舎の廊下はギャラリー

安曇野建設事務所の 10 年

発行 長野県安曇野建設事務所・犀川安曇野流域下水道事務所

発行年月日 平成 28 年（2016 年）3 月 30 日

編集 「安曇野建設事務所の 10 年」編集委員会

長野県安曇野建設事務所

〒399-8205 長野県安曇野市豊科 4960-1

TEL.0263-72-8880 FAX.0263-72-8882

E-mail : azumiken-somu@pref.nagano.lg.jp

犀川安曇野流域下水道事務所

〒399-8203 長野県安曇野市豊科田沢 6709

TEL.0263-73-6571 FAX.0263-73-6572

E-mail : azuminoryuiki@pref.nagano.lg.jp



拾ヶ堰から常念岳を望む